

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2014年6月）**

目 次

**内 政**

- ◆司法制度及び婚姻に関する憲法改正 . . . . . 2
- ◆政党支持率調査結果 . . . . . 2
- ◆キスカ大統領就任 . . . . . 2
- ◆与党Smer党大会 . . . . . 3

**外 政**

- ◆NATOに関するフィツォ首相発言 . . . . . 3
- ◆欧州委員会によるパートナーシップ協定の承認 . . . . . 3

**経 済**

- ◆欧州委員会による過剰財政赤字是正手続きの解除 . . . . . 4
- ◆モホウツェ原発建設状況 . . . . . 4
- ◆ロシアによるスロバキア電力会社買収の可能性 . . . . . 4
- ◆スロバキア中央銀行中期予測（第2四半期） . . . . . 5
- ◆スロバキア中央銀行月報（6月） . . . . . 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

**内 政**

**◆司法制度及び婚姻に関する憲法改正（6月4日）**

スロバキア国会は、司法制度及び婚姻に関わる憲法改正案について承認した。司法制度に関する憲法改正は、与党 Smer が主導し、婚姻については、保守的な野党キリスト教民主運動が婚姻を異性間のものとして憲法が保護することを求めている。

（１）司法制度に関する憲法改正によって導入される裁判官適性審査は、司法評議会が各裁判官の適性を判断するもの。調査項目は、資産状況、汚職との関わり、犯罪歴等に及ぶ。また、司法評議会メンバーの選定方法も変更され、最高裁長官は、司法評議会の議長を兼務できなくなり、議長は司法評議会メンバーの互選によって選出される。

（２）婚姻に関する憲法改正により、「婚姻が一人の男性と一人の女性という異性間だけのものであり、国家はそれを全面的に保護する」という条文が憲法に追加されることになった。

**◆政党支持率調査結果（6月6日、23日）**

世論調査機関 Polis と Focus がそれぞれ6月6日と23日に政党支持率調査の結果を公表した。両方の調査においてプロハーツカ氏の新党「Siet」が支持率を伸ばし、引き続き2位を守った。ズリンダ元首相及びミクロシュ元財務大臣が離党し、指導部も分裂の危機にある SDKU は5%前後で推移している。

	Polis	Focus
Smer（方向）	36.4%	32.2%
Siet（ネットワーク）	15.4%	15.8%
Most-Hid（架け橋）	7.6%	5.0%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	6.2%	7.6%
KDH（キリスト教民主運動）	8.1%	9.3%
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	5.7%	5.1%
SDKU（スロバキア民主キリスト教同盟）	4.7%	5.1%

**◆キスカ大統領就任（6月15日）**

キスカ新大統領が就任し、就任演説では、政党に依拠しない党派を超えた大統領として、政治的志向及び民族に関係のないすべての国民の側に立つ大統領となることを表明した。また、司法制度、教育、福祉、安全保障、雇用創出に関する問題提起、NATO体制の支持、スロバキアのEU議長国就任に関する政府への支援などを明言した。当地メディアは、ガシュパロヴィチ前大統領との相違点として、就任式後の行動をとりあげ、キスカ大統領が街頭で多数の国

民と握手したことや、大統領宮殿の庭園に生活困窮者達を招いたことなどを紹介した。他方、新大統領が、大統領府をマーケティングやメディア集団のように捉えていることも既存の政治家との違いとして指摘している。

#### ◆与党Smer党大会（6月28日）

与党Smerは党大会において新たな経済社会政策パッケージ及び党内改革を発表した。また、フィツォ首相は内閣改造にも言及した。

（1）フィツォ首相は、低所得者層への給付の増額、学生及び年金受給者の鉄道運賃無料化、ガス料金値下げ、幼稚園及び保育園数の増加、富裕層への社会給付制限等の政策パッケージを発表した。カジミール財務大臣の見積もりによると、政策に必要な毎年の予算は2億5000万ユーロ（GDP比0.35%）に上る。

（2）マジャリチ文化大臣とペレグリニ財務副大臣が新たに副党首に選出された。大会後には、行政や管理職への党からの任命者に対する適性審査も導入される。また、党指導部は倫理規範の準備も進めている。

（3）フィツォ首相は内閣改造を示唆し、チャプロヴィチ教育大臣及びマラティンスキー経済大臣の2名が交代させられる見込み。新たに副党首に選出されたペレグリニ副大臣が教育大臣となり、パヴリス経済副大臣が経済大臣に就任すると見られている。（注：その後、7月3日、右のとおりの内閣交代が実施された。）

### 外 政

#### ◆NATOに関するフィツォ首相発言（6月5日）

フィツォ首相は、米国が欧州で軍事力を増強するというオバマ米大統領の声明に対して「我が国に外国軍が駐留し、外国軍が操作する対空ロケット発射機が設置されることは想像できない」と反応した。ポーランド及びバルト諸国がNATO強化を歓迎する一方で、フィツォ首相及びソボトカ・チェコ首相は否定的見解を示している。フィツォ首相は、スロバキアへの外国軍駐留をソ連によるチェコスロバキア侵攻に例え、「1968年を思い起こさせることから、このテーマは我々にとって感情的なものとなる」と述べた。

#### ◆欧州委員会によるパートナーシップ協定の承認（6月20日）

欧州委員会はスロバキアとの2014-2020年のEU基金の利用に関するパートナーシップ協定を承認した。総額153億ユーロのEU基金は、主に経済成長及び雇用創出のために用いられる。スロバキア政府は、優先課題として、研究、イノベーション、再生可能エネルギー、交通及び環境インフラなど、

成長の鍵となる分野への投資を挙げ、同時に、雇用拡大、貧困との闘い、教育の質の向上等についても基金活用の重点部分としている。EU基金の効果的活用に向けた制度設計に関しては、基金の一部を留保し、効率性、資金活用等で高い進捗評価を得た事業に報奨金を支払う「パフォーマンス準備金」の導入を検討している。

## 経 済

### ◆欧州委員会による過剰財政赤字是正手続きの解除（6月2日）

欧州委員会は、スロバキアの過剰財政赤字是正手続き解除を欧州理事会へ提案した。カジミール財務大臣は、スロバキアが国家機能の改善に成功し、将来的にも持続可能な方法で公的財政を安定させたと主張した。欧州委の予測では、財政赤字は本年及び翌年も対GDP比3%以下になる。ただし、欧州委は、保健医療における歳出増に懸念を示しており、失業対策関連の税負担の削減などの問題点も指摘している。また、行政におけるサービスの質や効率性、汚職対策の実施及び司法制度改善についても勧告を行っている。

### ◆モホウツェ原発建設状況（6月10日及び11日付経済新聞）

モホウツェ原発3号機及び4号機は、2014年と2015年に完成する見込みであったが、スロバキア電力会社の要請によって完成時期は2016年末まで延期された。当初は、2013年の稼働を予定していたが、福島原発事故後に厳格化された安全基準に対応するために、2014年と2015年に延期されていた。モホウツェへの投資が継続されるかどうかとも問題となっており、電力価格は、現在、記録的安価で、1メガワット時（MWh）が約35ユーロで取引されるなど、2基の増設が始まった2008年よりも数倍安くなっているため、原子炉の稼働から数年は赤字になると予想されている。

### ◆スロバキア電力会社買収の可能性（6月11日及び12日付スメ紙）

ロシア最大手銀行ズベルバンクは、スロバキア電力会社（SE）に対して7年半で8億7千万ユーロもの巨額融資を実施する。SEは核燃料の購入及びモホウツェ原発建設のために融資を受ける。融資は、SEの66%の株式を保有するイタリアのEnel社がSE株式を売却予定資産に含めたタイミングで決定された。専門家は、考えられる売却先はロシアであると指摘しており、ズベルバンクの主要顧客であるロシア国営ロスアトム社が高い関心を抱いていると見られる。マラティンスキー経済大臣は、ロスアトム以外に、チェコ電力会社もSE買収に以前から関心を持っていることを指摘している。また、Enelが株式を売却しない可能性も残っていると述べている。

## ◆スロバキア中央銀行中期予測（第2四半期）

### 1. GDP

(1) 2014年の経済成長は、第1四半期予測と変わらず、2.4%、2015年は3.2%、2016年は3.5%と予測。輸出が経済成長の牽引役となり、今後数ヶ月輸出増が続くものの増加のテンポは鈍ると予測。背景には、ウクライナ危機を巡る緊張があると考えられる。

(2) 2014年第1四半期の投資需要は前期比で低下したと見られる。短期的には、建設部門の不振から慎重な見方が支配的であるが、2014年には、インフラ建設の開始が見込まれており、建設部門も回復に転じる可能性がある。

(3) 2014年第1四半期には、個人消費の顕著な回復が見られた。回復は一時的なものであり、今後はより緩やかなテンポで消費が上昇していく見込み。

### 2. 労働市場及び賃金

(1) 国内需要の回復が、継続的な雇用率の上昇につながると見られる。特に民間部門では2014年に16,000人の雇用創出が見込まれる。失業率は、2016年には12%まで下がると予測。

(2) 2014年は、公共及び民間部門において賃金上昇率の加速が見込まれる。2016年にかけての名目賃金の伸びは年4%と予測。

### 3. 物価

穏やかな物価の下落は、2014年第3四半期まで続くと見られる。年末に向けて、食料品価格の上昇に伴い、物価上昇率は再び1%に近づく見込み。2016年にかけて、徐々に物価は上昇し、物価上昇率は2%程度になると予測。

### 4. 貿易

スロバキアの製品に対する需要は世界貿易の動向の影響を受け、前年比で2014年は3.9%、2015年は5.1%、2016年は5.6%と徐々に拡大する見込み。また、貿易黒字はGDP比で2014年は6.1%、2015年は6.4%、2016年は7.0%と予測。

## ◆スロバキア中央銀行月報（6月）

### 1. GDP

(1) ユーロ圏の最新の指標は、経済成長が主に輸出に牽引されていることを示している。個人消費は小売業の売り上げの伸びが加速していることから、増加傾向が続く見込み。ユーロ圏の物価の推移は引き続き落ち着いており、輸入品の低いインフレ率を通じて、スロバキアの物価上昇を抑えたと予想される。

(2) ユーロ圏の好調さがスロバキアに与える影響は部分的で、4月の経済統計は四半期レベルの経済の鈍化傾向を引き継いでいる。

(3) 4月の売り上げは、前期比0.3%増と僅かな伸びに留まった。4月は

鉱工業部門の売り上げが伸び悩み、卸売及び小売が最も大きな割合を占めた。全体の売り上げは前月比0.4%増となった。

(4) 1月～4月の鉱工業生産は、自動車生産の落ち込みから、前期比で1.3%から1.1%に鈍化したものの、金属、電子機器の生産が自動車生産の落ち込みをある程度補った。4月の鉱工業生産の成長率は前月比0.8%増、建設部門の生産は、国内の新規建築の減少を反映して前期比5.1%減となった。

## 2. 雇用率及び賃金

(1) 4月の雇用率は前月比で0.2%、前年同期比では2.5%と上昇した。雇用率の月毎の改善傾向はより顕著になりつつあり、鉱工業部門、サービス部門及びIT・通信部門において上昇。建設部門は、前年同期比及び前月比で若干低下している。5月の失業者数は、前月比で5100人減少し、登録ベースの失業率は4月の12.96%から12.8%に低下した。

(2) 緩やかな景気回復を受け名目賃金の伸びも加速し、4月は前年同期比で4.4%、前月比で1.3%上昇。平均名目賃金は819.3ユーロに達した。鉱工業部門、そして、若干ではあるが商業部門も上昇を後押しした。建設部門では、前年同期比では下落しているものの、前月比では平均賃金に上昇が見られた。IT・通信部門及び一部のサービス部門で4月の賃金が下落している。

## 3. 物価

消費者物価指数に基づく5月の物価水準は、前年同期比0.0%と下落に歯止めがかかり、前月比では0.3%上昇した。前年同期比での物価下落が弱まったのは、主に加工食品及び燃料の値上がりの影響による。今後2ヶ月、消費者物価指数の前年同期比の数値は、0%近くで推移すると予想される。

## 4. 貿易

(1) 4月の商品輸出は実質で前期比0.1%減少。自動車産業の影響を受け、輸出の減少傾向が続いている。電機産業の輸出は比較的安定した状態にあるものの、自動車輸出の減少分を他の部門が補うことはできなかった。

(2) 4月の輸入は実質前期比で0.2%減少した。輸入消費財の総量は国内消費の急増に伴い、3月の記録に迫るものであった。国内消費の増加は5月以降も輸入を後押しすると見られる

(3) 4月の名目の貿易黒字額は減少し、季節調整前で3億4580万ユーロとなり、前年同月を2億300万ユーロ下回った。輸出は前年同期比で3.3%減少、輸入は0.3%増加した。

(了)

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

